

南極・北極への窓口

2008年2月15日、日本のメディアは「スキーで南極点へ到達した女性」と「南極最高峰ビンソンマシーフへ登山した男性」に対し、無届で南極に行ったので、環境省が始末書をとると報じた。二人はアメリカの旅行ツアーに参加しての南極行きであり、其のうちの一人は「日本にそんな法律のあることを知らなかった」と自身の無知を棚上げして、公言していた。

現在、南極大陸内の旅行はアメリカに本社のあるアドベンチャー・ネットワークがすべてを実行している。ツアー旅行であろうと個人旅行であろうと同社がすべて面倒を見てくれる。そしてそのアドベンチャー・ネットワークと日本国内で唯一連携しているのがトライウエル・インターナショナルである。

同社はこれまでも南極大陸周航や北極点への航海ツアーを扱ってきた。ツアーばかりでなく個人的な冒険旅行に関しても、アドベンチャー・ネットワークへの仲介の労をとってくれる。旅行内容にもよるが、多くの場合金額的にもアメリカのツアーに参加するより、トライウエル・インターナショナル⇒アドベンチャー・ネットワークのルートの方が安くなる。そして何よりも環境省への届出など、必要な手続きに遺漏の無いよう配慮してくれる。

人類にとって最大の世界遺産とも言える南極への旅は、環境破壊を厳しく戒められた旅であり、それだけに事前の勉強は欠かせない。同社からは関係する諸情報も得られる。筆者も其の役に立てばと「旅する南極大陸」（三五館、2007）上梓している。

神沼克伊先生プロフィール:

1966年東京大学大学院理学研究科修了（理学博士）。東京大学地震研究所入所。地震予知、火山噴火予知などの研究に従事。1966年12月～68年3月にかけて第8次日本南極観測隊に参加。昭和基地で越冬。

1974年5月文部省国立極地研究所に配置換え。両極の地球物理学的な研究に従事。この間に南極大陸に震源のある地震を初めて発見する。2001年3月定年退官。越冬2回を含め、15回南極に行く。南極点には6回立つ。現在、極地研究所および総合研究大学院大学(本部葉山町)・名誉教授。

